

ブドウべと病の防除を徹底してください

岡山県病害虫防除所の県予察圃場におけるブドウ（ピオーネ）べと病の初発生は、平年（6月25日）より早い6月14日に認められています。また、6月24日の巡回調査（簡易被覆栽培）では、発病程度は低いものの、発生圃場率が100%と平年（22.7%）より高くなっています。

広島地方气象台による向こう1か月の予報（6月24日発表）によると、前線や湿った空気の影響で曇りや雨の日が多いとされており、降雨が続くと急速に発病程度が高まる恐れがあります。薬剤防除は予防散布が重要なので、圃場をよく観察し、防除を徹底してください。

（防除上の参考事項）

- （1）本病原菌は落葉した被害葉で越冬して第一次伝染源となり、5～6月の降雨時に病原菌が風雨ではね上げられて葉裏の気孔から侵入して発病する。その後、発病葉から病原菌が飛散して二次伝染する。感染後、発病までの潜伏期間は約7日間である。
- （2）袋掛け後の無機銅剤（ボルドー液など）の散布（ムラなく散布）は有効な防除対策である。
- （3）ストロビルリン系殺菌剤（アミスター10フロアブル、ストロビードライフロアブル、ホライズンドライフロアブル）を使用したにもかかわらず、べと病の発生が多い圃場では、耐性菌の発生が疑われるので他系統の殺菌剤を使用する。
- （4）農薬の使用にあたっては、果実の果粉溶脱に対する注意や収穫前日数を考慮して農薬使用基準を遵守し、安全・適正に使用するとともに、周辺農作物等への農薬飛散防止策をとる。



図1 ‘ピオーネ’の葉表の症状



図2 葉裏のべと病菌（白いカビ）

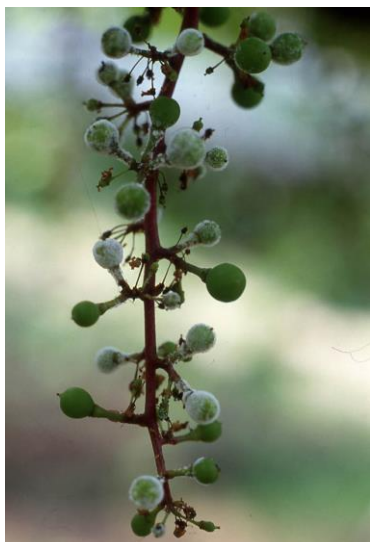


図3 幼果（小豆大期）の症状



図4 幼果（大豆大期）の症状

この情報は、岡山県病害虫防除所ホームページでも公開しています。
アドレスは、<http://www.pref.okayama.jp/soshiki/239/>です。

